



Creative MIYAKO委員会 宮古高校

三河倫大議員 (1年、写真左)
重茂大漁議員 (2年、写真中央左)
中村遥首議員 (2年、写真中央右)
多田厚仁議員 (2年、写真右)

問① Ⅱ近隣住民同士のつながりが弱くなる
と、災害時の連携が上手くいかず、被害が
拡大しやすくなるのが懸念される。そこ
で、地域コミュニティの強化についてど
のような取り組みをされているのか伺う。
答① Ⅱ防災士養成を行い人材育成に努める
とともに、自主防災組織を支援している。
地域では、防災士を中心とした防災訓練な
どを開催し、交流を深める機会を作っている。
問② Ⅱ高校生221人に対し公共交通機関
の待ち時間に関するアンケート調査を行っ
たところ、約6割の生徒が「待ち時間が退
屈だった」と回答している。その時間を有
効活用できる場所があるか伺う。
答② Ⅱ待ち時間に活用できる市の施設は、
イーストピアみやこ・市立図書館・地域創
生センターがある。また、未広町にある
みやっこハウスでもフリースペースが利用
できる。待ち時間を有意義に過ごせるよう、
これらの施設を、生活スタイルに合わせて
利用していただきたい。



YuRuToMi委員会 宮古水産高校

菅原柊夜議員 (1年、写真左)
湊悠誠議員 (2年、写真中央左)
佐々木美緒議員 (2年、写真中央右)
後藤琉夏議員 (1年、写真右)

問① Ⅱこれからの漁業を支えるには、幅広
く養殖について考えていく必要がある。そ
こで、宮古水産高校に養殖科を新設しては
どうか。
答① Ⅱ養殖漁業は、安定した水揚げを見込
むことができ、今後ますます重要になる。
養殖を専門的に学び、即戦力として養殖漁
業に従事できる人材を育てるため、県に養
殖科の新設を要望している。しかし、県には、
養殖を指導できる教諭が不足していること
など、以上のことから、漁業協同組合
などと連携して、養殖の教育ができる体制
づくりを進めていくことを検討している。
問② Ⅱ市は、パートナーシップ・ファミリー
シップ制度を導入したが、高校生のLGB
TQへの理解が浅いように感じる。教育現
場での取り組み状況をお伺いする。
答② Ⅱ教育現場では、あらゆる機会をとら
え適切に指導している。市では性の多様性
への理解を深める講座などを開催してお
り、高校生も参加しやすいよう考慮する。



M・N委員会 宮古北高校

佐々木陽楠葵議員 (2年、写真左)
工藤帆夏議員 (2年、写真右)

問① Ⅱ市では、新規学卒者およびU・Iター
ン者などに就業奨励金を支給しているが、
一人につき10万円という内容は不十分で
はないか。
答① Ⅱ新規学卒者およびU・Iターナー等
就学奨励金は、令和4年度までに352人
が活用しており、仕事を続ける励みになる
との声をいただいている。また昨年度から、
対象となる事業所を山田町・岩泉町・田野
畑村も含めた宮古管内に拡充した。今後
も、必要に応じて支援制度の創設や見直し
を行っていく。
問② Ⅱ空き家をリフォームする場合、多額
の費用が必要となる。U・Iターナー者や移住
者、子育て世代を対象に、リフォーム補助
金の増額を行えば、移住者の促進や子育て
支援にもつながるのではないか。
答② Ⅱ空き家を活用したい人や、住まい
を必要としている移住者や子育て世帯両者
にとって有効な施策に取り組んでいき
たい。





takamiya委員会 宮古商工高校（工業）

高宮海人議員（2年、写真左）
中村裕誠議員（2年、写真中央）
佐々木奎翔議員（3年、写真右）

問① Ⅱ市には4つの専門学校があるが、得られる知識が限られている。その結果、市外に出てしまう人が少なくないことから、岩手県立宮古短期大学部に新たな学科を新設するなどの対策が必要ではないか。

答① Ⅱ若い人から、市内で学ぶ選択肢を増やしてほしいとの声があることは承知している。引き続き情報を精査し、実現可能な対策から取り組んでいく。また、市外に進学しても、就職するために本市に戻ってきてもらうことも大切だと考えている。そのため、各種奨学資金貸付制度や返済助成・返還免除制度について市内高校生への周知を強化するなど、啓発に取り組んでいる。

問② Ⅱ企業を誘致する対策として、オフィスの家賃に対して、補助金を出すのはどうか。

答② Ⅱ本市では製造業またはソフトウェア業を行う新規事業者に対して家賃補助を行っている。県内市町村の補助制度を参考としながら、より良い補助制度となるよう引き続き取り組んでいきたい。



宮高観光委員会 宮古高校

里見ゆうか議員（2年、写真左）
大向優衣議員（2年、写真中央）
内館柚子議員（2年、写真右）

問① Ⅱ市のSNSの投稿は、ほぼ写真だけとなっており、情報をより多く伝えられる動画投稿がほとんどない。観光に来られる方への魅力を発信していくには動画による発信が必要だと考えるが、今後どのように展開されるのか考えを伺う。

答① Ⅱ最近では、インスタグラムのリール動画の投稿などが主流であり、短い動画で情報を伝えることが重要であると考えている。若い世代の方々の意見などを聞きながら、SNSの発信方法を検討していきたい。

問② Ⅱ市では客船誘致に力を入れており、本年は寄港数が8隻と最多となっている。しかし、12月から2月は寄港していない。宮古は、冬期間の特産品が多いことから、この時期に誘致ができないか考えを伺う。

答② Ⅱクルーズは、温暖な地域での観光需要が高いなどの理由から、北日本へは冬季の寄港実績がない。他港とも連携して冬の魅力をPRしたセールス活動を展開し、誘致につなげられるよう取り組んでいく。



うりぼ～委員会 宮古商工高校（商業）

鳥居しゅん議員（2年、写真左）
堀内梨那議員（1年、写真中央）
小野寺翔哉議員（2年、写真右）

問① Ⅱ市には、人口減少という課題がある。現状、宮古市人口ビジョンの予測値よりも明らかに速いスピードで人口減少が進んでいる。今後どのような対策を進めていくのかお聞きしたい。

答① Ⅱ高校生や若者が希望する暮らしを実現できる進路の創出が必要である。産業立市を進め、高校生が定住したいと思う、魅力のあるまちづくりに取り組んでいく。

問② Ⅱ市には、シーカヤック体験やSUPなどの体験型観光があり、市内外の多くの人に利用されている。しかし、多くの自然環境を活用した娯楽施設が足りないと感じる。今後、整備などを行う計画があるか。

答② Ⅱ本市では、自然観光資源を活用した体験型観光の促進に力を入れている。確かに、娯楽施設の整備はアクティビティの拠点になることが期待され、観光客の誘致に役立つと考える。観光客のニーズを把握しながら、さまざまな観光施策を推進していきたい。

